



こころの探究

— 寄り添い支えるために —

学校教育講座(心理学) 石井 僚 准教授

分からないこころの探究

「心理学を学んでも人のこころは読めるようになりません」と言われて、驚く人は少なくないかもしれません。私自身、大学に入学して最初の授業でこの事実を伝えられ、衝撃を受けたのを今でも覚えています。そもそも心理学は、人のこころを読むのではなく、人のこころの仕組みを理解しようとする学問です。車に例えるなら、車についてどれだけ詳しくても、交差点を行き交う車が右折するか左折するか直進するかは分かりませんが、車のメンテナンスやより良い運転につなげることはできるかもしれません。こころも同じで、仕組みを理解することで、支援等に結び付けることができるのです。

どのように生きていきたいか

私が心理学の研究としてはじめに取り組んだのは、自分とは何なのか、どのように生きていきたいのか(アイデンティティと呼ばれる概念)と、人が過去、現在、未来をどう捉えるか(時間的展望と呼ばれる概念)というものでした。いずれも、およそ中学生から大学生くらいの時期にあたる青年期に、発達をしていくものです。人は必ず死という未来を迎えるわけですが、その日までどのように生きていきたいのかを考えることが、よりよく生きていくことにつながるのではないかと考え、実験や調査等を行ってきました。



子どもの自殺や 貧困の影響を止めるために

最近取り組んでいるのは、よりよく生きることを阻害する子どもの自殺や、貧困の影響についての研究です。日本における子どもの自殺率は、他の先進国では類を見ないほどの高さになっています。また、自殺が起こるメカニズムは非常に複雑で予測は難しいと言われています。そこで、たくさんのデータを、機械学習と呼ばれる手法を用いて分析を行うことで、自殺念慮を持つ10代の子どもたちを予測する研究を行いました。その結果、一定の精度で予測ができ、またその予測には、親子間の時間的な展望が異なることが重要な要因の1つになること等を明らかにすることができました。

貧困については、すぐに根本的な解決をすることは難しいですが、その心理的な影響を緩和することであれば、できることがあるのではないかと考えています。その1つとして、金融についてのリテラシーを高く持っていれば、貧困状況でも自分は何とかなできると思い、貧困に伴う抑うつが上がらない可能性があることを、成人を対象とした基礎的な調査を行うことで見出しました。



寄り添い支えるために

私が大切にしたいと思っていることは、人の興味です。当たり前のように思うかもしれませんが、すぐに役に立つことや有意味に思えることばかりが求められるような風潮もある中だと、純粋な興味を大切にすることは意外に難しいことでもあります。私の研究もそうですが、興味に基づいたものは、必ずしもすぐには役に立つように思えなかったり、今流行りのものではなかったりします。



ただ、この変化の激しい時代の中で、そのとき役に立つと思えることや流行物は、本当の意味で有用でしょうか。そのときには何の役に立つのか分からないようなものが、後になって偉大なものとして認識されることはよくあることです。これは研究でも人生でも一緒ですよ。何より、興味のあることに取り組んでいるとき、人は心身ともに健康になれることが多いものです。私も研究者として、興味に基づいて深く探究することが、直接的ではなくても、人のところに寄り添い、支えることにつながっていくと信じています。また大学教員として、学生や院生の興味を見つけ、育てることができるような存在でありたいと思っています。



研究室の取り組み

ゼミ配属後の3回生から大学院生までが一緒になってゼミをしています。みんなで専門書や論文を選んで講読し、専門的な知識を得たり、議論して考えを深め合ったりしています。また、3回生を中心に1つの研究をみんなで進めて、大学祭で一般向けに発表をしています。こうした活動とは別に、卒業論文や学位研究報告書に向けて各自の研究テーマの探究も進めていますので、多忙な日々になりがちですが、仲間と一緒にこころの探究に取り組む姿には、私もたくさんの刺激と感動をもらっています。



▲大学祭で地域の子どもたちに心理学の体験をさせるゼミ生

研究発表



▲ゼミ生たちが大学祭で一般向けに研究発表



▲国際学会で学生たちと研究発表

プロフィール



学校教育講座(心理学)

石井 僚 准教授

名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士
後期課程修了。

2018年4月着任。2021年4月より現職。



▲ゼミ旅行はみんなで神戸に行きました

ゼミ生からの研究室紹介

石井研究室には、現在8名の学生(学部3回生4名、4回生2名、大学院生2名)が所属しています。活動内容は主に2つです。まず、所属ゼミ生全体でひとつのテーマを決め、毎年11月にある大学祭で研究発表を行います。それが終わると、卒業論文の作成に取りかかります。

心理学は、人間に関係していることであればほぼ何でも研究対象になる広くて深い学問なので、人によって研究内容は様々です。ゼミは、各自で調べたことや考えたことを共有し、そのテーマについて全員で考える形式なので、自分一人では思いつかなかった発想や新しい着眼点を得る事ができます。

学生の「やってみたい!」「知りたい!」にとことん付き合ってく下さる石井先生のもとで、日々楽しく活動しています。



心理学専修 3回生
帝塚山高等学校出身
かきもと あおい
柿元 葵さん

